

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマツト・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 A		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和2年1月9日	評価結果市町村受理日	令和2年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokenisaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouin_you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2392400160-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、少人数の外出や散歩を行いまたレクリエーションを積極的に取り組んでいます。皆さんと料理作りやボール遊びをよく行っています。またご入居者様の現存能力をかして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア(訪問歯科の連携)、医療(往診、受診)と訪問看護の連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の夏祭りや盆踊り、地域の祭礼に参加しています。意欲がわくように表形式で示し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜で有名な刈宿公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が建っている。1階はデイサービスが併設され、2階が2ユニットのグループホームとなっている。事務所をはさんで左右対称にあり、居間から出た南面には共用の広いベランダがある。日々の生活の中で、入居者と共に洗濯物を干したり、プランター栽培やイベント等にも活用されている。入居者が笑顔で健やかに、楽しみのある生活が送れるように、健康管理に留意し、歯科医師から指導を受けた口腔ケアに取り組んだり体操にも力を入れている。入居者の保有能力の維持活用にも取り組み、調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の生活動作を職員と一緒に楽しみながら行っている。外出支援や日々の散歩、レクリエーション活動にも取り組み地域の方との交流も深めていきたいと意欲的である。入居者は1階のデイサービスのイベントに参加したり、明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームをしたり談笑をして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

已 郵 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHで理念は決めている。利用者様を思いやりをもって接する。意識している人が少ない。	法人の理念を基本に、各フロアごとに目標を決めている。入居者が心身ともに健やかに過ごせるよう職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持って接するよう努力をしている。職員同志のコミュニケーションを大切に、「やりがいと生き甲斐、達成感」を念頭に置いたサービスや目標を共有するよう努力をしているが、職員の意識に差がみられる。	法人の理念「共感・共創・共生」の持つ意味について職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を今一度確認し職員全員が同じレベルのケアの提供をするために、話し合いや振り返りの機会を設け、理念の共有と実践が図れるような工夫を望みたい。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや朝市、施設行事(花見)に地域との交流をしている。	町内会には加入していないが、民生委員やコミュニティーセンターの憩いの家のサロン、地域の掲示板等で情報を得ている。盆踊りや山車祭りに参加したり、朝市や憩いの家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流する機会を大切にしている。事業所の夏祭りには地域ボランティアの協力を得て催し物やゲームを行い、地域の方々を招待して盛り上げを見せている。また、併設するデイサービスの行事にも参加し地域の方と交流したり、高校生の体験学習や専門学校生の実習も受け入れている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協の協力で地域の高齢施設紹介を行っている。ホームページで紹介している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ででた家族の意見を踏まえて改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。	入居者や家族、民生委員、市や地域包括支援センターの職員の参加を得て年6回実施している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告、感染予防対策等の報告がされ、参加者からの情報や意見、提案等はそこで話し合われたり、全体会議などで検討して運営やサービス向上に活かしている。議事録は市や参加家族に送付している。	町内会への加入が難しくても地域情報を得たり、地域に事業所の情報を発信するためにも、地域の有識者として町内会の代表を運営推進会議のメンバーとすることを望みたい。通所介護事業所を併設しているので尚のこと地域情報や事業所からの発信は必要と思われる。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。	運営推進会議に市の担当者が毎回出席し、情報やアドバイスを得ている。担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務等で訪れた際、事業所の取り組みなどを伝え、情報交換をしたりアドバイスや指導を受けるなど、良好な協力関係を築いている。また、担当者から地域の困難事例などの相談や照会を受けた時は協力している。職員が市主催の研修会に参加できるよう案内を掲示している。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて施設の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として身体拘束をしないケアを謳っている。身体拘束適正化委員会を3か月に1回行っている。身体拘束のマニュアルを通したり、拘束に対する資料を毎月配布して話し合いを重ねながら意識を高め、認識の共有を図っている。スピーチロックには特に留意し、入居者一人ひとりの、その日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。建物の構造上、安全のため各ユニットの出入り口は施錠している。また、夜間の安全のためセンサーマットを利用することもある。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて施設の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

已 部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護については利用者様の中で該当される方を通じて理解する様にしている。わからない方もいる。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているので注意する点があれば職員に周知を促している。		
# (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望を職員に報告をして反映する様にしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いや要望を聞き、記録し全職員が確認し共有してケアにつなげている。家族からは運営推進会議や面会時、家族会などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。意見箱の設置をして意見を述べやすい環境を整えたり、毎月各ユニットごとに、新聞を発行し家族に安心を届けている。	
# (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が時々支援に入り職員の意見に対して提案をしている。	日々の業務の中や申し送り時、ユニット会議やグループホーム会議、全体会議などで職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い運営に反映させている。人事評価システムを導入し、それぞれが設定した目標に向けた自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、より良いケアに繋げるよう努めている。管理者とは面談の他に随時話し合う環境があり、職員の要望や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映するようにしている。	
#	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。環境づくりしてほしい要望がある。		
#	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。		
#	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネを持っている方は交流する機会があるが職員で自己にて参加する場合以外はあまりないけど余裕がない。		

已 部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
#	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
#	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
#	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
#	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしむこともある。信頼を築けるように努めている。		
#	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
# (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方も来られている。途切れないように努めている。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。ふれあいサロンに出掛け知人と話したり、友人の訪問で旧交をあたため繋がりが続くよう配慮している。散歩や買い物で行き交う人との挨拶や外食先などは新しい馴染みの人や場所となっている。お墓参りや外食、馴染みの美容院等へは家族の協力を得ている。また、その人の趣味や日常の家事などの継続も支援をしている。	
#	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒のいる場を考え交流できるようにしている。		

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても状況に応じて相談や情報伝達に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
# (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。	基本的には傾聴に努め、それぞれの入居者が一番リラックス出来る入浴時や夜の落ち着いた時間帯の会話の中から希望や意向を把握している。希望や意向などは記録し、会議で話し合っ職員間で共有し、ケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなずき、表情や態度などから把握したり、家族の協力を得ることもある。本人本位に検討して思いに寄り添う支援に努めている。	
#	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
#	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
# 10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合い、ケア方法の見直しを行いご家族の要望も反映する様になっている。	居室担当者が入居者や家族に意向や希望を聞いたり、日常の様子を記載した個別記録を基に、毎月のユニット会議で問題や課題について話し合い情報交換をしている。モニタリングを経て3か月毎に医師や看護師など関係者の意見や家族の意向を踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
#	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し申し送りでの他の職員と共有している。		
#	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場合がある。		

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝市や桜や春祭り、盆踊り等の見に行ったりして楽しんだりする。		
# 11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医に受診や往診によって医療を受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科と歯科は月1回の往診があり、週1回訪問看護師による健康管理も行われている。かかりつけ医の場合は家族の協力を得ているが、困難な場合は職員が付き添い受診をしている。受診後は家族や職員に受診結果を周知しケアにつなげている。薬の管理は毎月薬局がカレンダー方式で配薬を行っている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間体制で医師や看護師、訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
#	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
#	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
# 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。見取りも行っている。	重度化や終末期、看取りについては、入居時に意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、状況を説明して意向の再確認をしている。看取りの方針が決まった場合は、家族や医師、訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むためにセンター長により医療や介護、メンタルケアなどの勉強会が行われている。	
#	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。職員により救命救急講習を受けている。		
# 13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。	年2回消防署員立会いの下、昼間・夜間想定で火災や地震の避難訓練を実施している。初期消火訓練や避難誘導、避難経路の確認をしている。消防署から指摘された個所や課題については、運営推進会議やカンファレンスで話し合い改善に向けた取り組みを行っている。備蓄は3日分の水や食料と、各種防災グッズを用意している。地域との協力関係は今後の課題となっている。	想定外の災害が起こっている昨今である。地域の防災対策がどのようになっているか、その時事業所はどのような立ち位置にあるかを知ることは重要である。地域の防災訓練に参加し情報を得て、事業所として何ができるか、どんな時にどのような援助をしてほしいかを具体的に検討されることを期待する。

已 部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
# [14]	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしているように心掛けている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し「人生の先輩」として個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに留意し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」が出来るように、確認し合いながら支援に努めている。	
#	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々の場面で自己決定できるように促している。		
#	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしているがたまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
#	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えて散髪をされている。		
# [15]	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。後片付けでお手伝いできる方はお願いしている。	食材は地元の八百屋から仕入れ、本社管理栄養士による献立を基に、各ユニットで調理方法や量、好み、アレルギーなど考慮し、調理している。また、苦手な食材や持病で制限のある人には制限食や代替食を用意している。入居者は保有能力に合わせて、食材の準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。また、希望を聞いて外食をする機会を設けたり、おせち料理や節分、雛祭り、バレンタインデー、誕生会などの行事食を楽しんだり、お好み焼きや冷菓パーティなどを計画して職員と一緒に作って楽しんでいる。	
#	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状によって食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるように健康管理をしている。		
#	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		

已 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
# 16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導で利用者様の動きによってパット使用で夜間ベット上での交換が多くなる。	座位での排泄支援に努めている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人にあったトイレ誘導に努めている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、見守りと誘導を行っている。便秘予防では、水分や食べ物を工夫してなるべく自然排便の支援をしているが、状態に応じて看護師や医師と相談して対応している。	
#	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて続かないように食べ物や水分、医師に相談して対応している。		
# 17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間が決まってしまうと午後入浴であるが、入浴日を指定している面がある。	各ユニットの浴室には個浴槽が2個備わっている。午後のゆったりした時間に、状態に合わせて入浴支援をしている。希望があれば毎日でも可能となっている。個々の着替えは、籠に入れて事前に準備をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。足湯しながら湯の清潔に留意したり、冬季は脱衣室や浴室を暖めてヒートショック予防に配慮している。季節を感じる、ゆず湯やしょうぶ湯等も楽しんでいる。	
#	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
#	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は2人確認で間違いなく服用する様にしている。		
#	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや食事では何か刺激あるように努めている。		
# 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近なかなかできていなく機会があれば少人数で行うようにしている。	環境に恵まれたところであり、天候や体調に合わせて散歩や憩の家のサロンに少人数づつ出掛けている。天気の良い日には畑の手入れやベランダで洗濯干しをしたりして季節の移ろいを感じながら外気に触れる機会を大切にしている。外出レクでは、デイスの車を利用して桜や秋桜、彼岸花など季節のお花見に出掛け、出店で買い物したり散歩をして楽しんでいる。	

已 部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払し後で家族に請求している。		
#	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でお話をしたい場合は行っている。		
# 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で季節感がわかるように飾りつけを行っている。	事務所を中心に左右にユニットが配置されている。明るく広い共用空間は温、湿度が管理され、不快な臭いや音などもなく快適な環境が保たれている。リビングには、お花のリースや絵画を飾ったり、季節の行事の写真や手作りカレンダー等を飾って、それぞれのユニットごとに雰囲気の違いを出している。余暇の時間には、入居者は好きな書き物やぬり絵をしたり、新聞やチラシを見て談笑したりソファに座ってビデオを見てたりしてゆったりと過ごしている。	
#	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
# 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。	居室には、壁面収納の大きなクローゼットや棚が備え付けられ、空間を広く使えるよう工夫されている。入居者は、使い慣れた筆筒やテーブルを持ち込み、好みの小物や写真を飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。ペットの位置や部屋のレイアウトを自由に決めて、それぞれの生活スタイルで居室をコーディネートして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
#	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛けご本人が理解しやすいように掲示や声掛けをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマツト・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 B		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和2年1月9日	評価結果市町村受理日	令和2年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokenisaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouniyou_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2392400160-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、外出、外食等によって参加で取り組んでいます。またご入居者様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や歌を唄ったり、口腔ケア(訪問歯科)、医療(往診、受診)と訪問看護の連携を実施しています。皆さん入浴が好きで毎日入浴できるように行事以外行っています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションや年1回の盆踊り、地域の祭礼に参加しています。誕生日会は本人が食べたい物を取りれて楽しく催しを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春ぼけで有名な刈宿公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が建っている。1階はデイサービスが併設され、2階が2ユニットのグループホームとなっている。事務所をばさんで左右対称にあり、居間から出た南面には共用の広いベランダがある。日々の生活の中で、入居者と共に洗濯物を干したり、プランター栽培やイベント等にも活用されている。入居者が笑顔で健やかに、楽しみのある生活が送れるように、健康管理に留意し、歯科医師から指導を受けた口腔ケアに取り組んだり体操にも力を入れている。入居者の保有能力の維持活用にも取り組み、調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の生活動作を職員と一緒に楽しみながら行っている。外出支援や日々の散歩、レクリエーション活動にも取り組み地域の方との交流も深めていきたいと意欲的である。入居者は1階のデイサービスのイベントに参加したり、明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームをしたり談笑をして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHで理念は決めている。利用者様を思いやりをもって接する。意識している人が少ない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや朝市、施設行事(花見)に地域との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協の協力で地域の高齢施設紹介を行っている。ホームページで紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族の意見を踏まえて改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて施設の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて施設の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については利用者様の中で該当される方を通じて理解する様にしている。わからない方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているので注意する点があれば職員に周知を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望を職員に報告をして反映する様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が時々支援に入り職員の意見に対して提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。環境づくりしてほしい要望がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。参加率が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネを持っている方は交流する機会があるが職員で自己にて参加する場合以外はあまりないけど余裕がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしまうこともある。信頼を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に家族が多く友人は少なくなってきた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒にいる場を考え交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても状況に応じて相談や情報伝達に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の人数の関係で会議が持てないので申し送りで話し合いをして計画や支援の仕方を決めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し申し送りで他の職員と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	朝市や地域コミュニティに喫茶したり、桜や春祭り、盆踊り等の見に行ったりして楽しんでる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医に受診や往診によって医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。見取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。職員により救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしていけるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしているがたまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えて散髪をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。後片付けでお手伝いできる方はお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状(糖尿病、腎不全)によって食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるように健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導で利用者様の動きによってパット使用で夜間ベット上での交換が多くなる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて続かないように食べ物や水分、医師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が決まってしまうと午後入浴であるが、入浴日を指定している面がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は2人確認で間違わずに服用する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや食事で何か刺激あるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	最近なかなかできていなく機会があれば少人数で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払した後で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でお話をしたい場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で季節感がわかるように飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛けご本人が理解しやすいように掲示や声掛けをしている。		